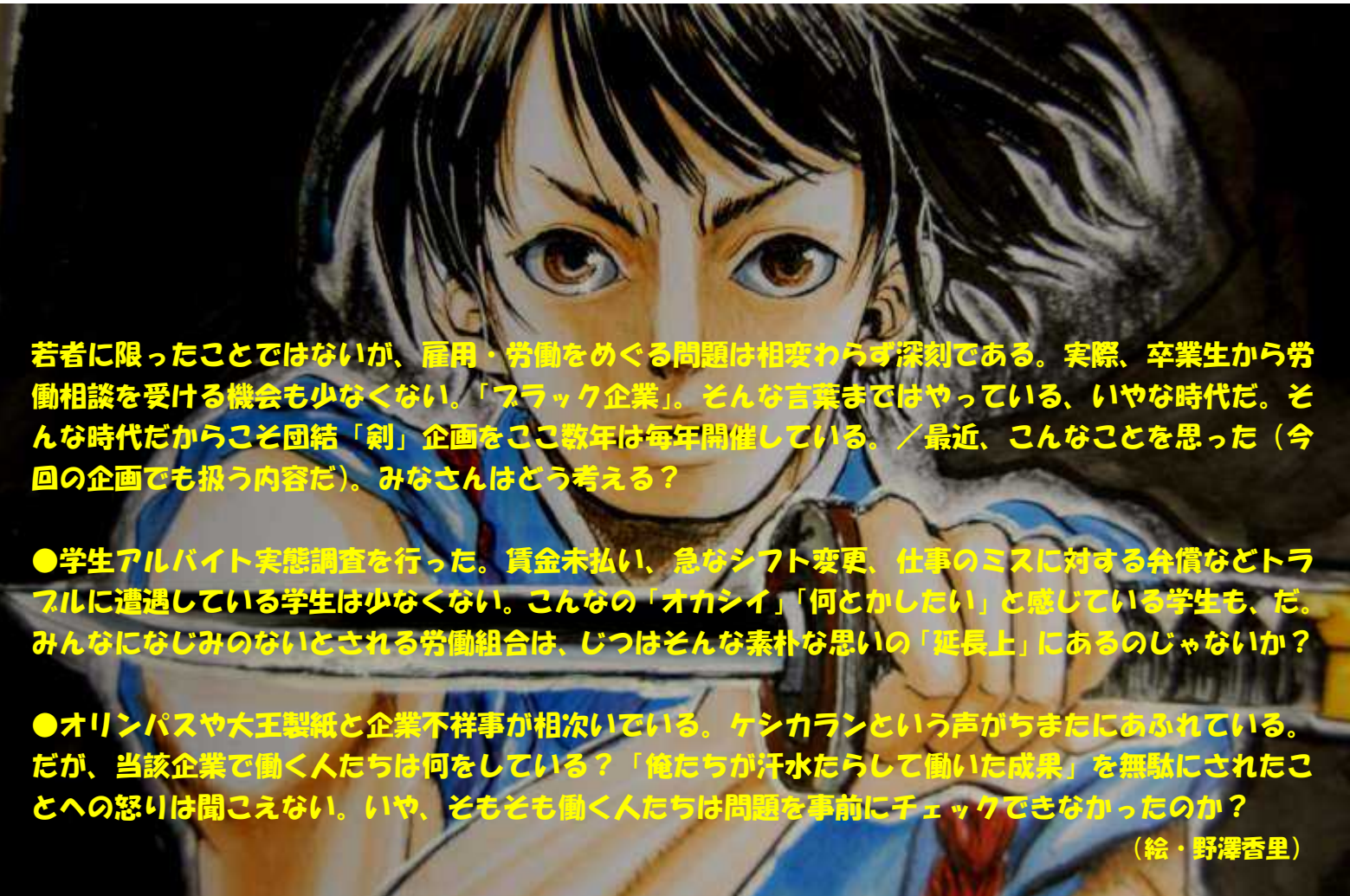


「労働経済論」講義（川村雅則）が贈る年末企画

若者よ、剣を取って生き抜け！

—いまなぜ、団結「剣」・労働組合か—



若者に限ったことではないが、雇用・労働をめぐる問題は相変わらず深刻である。実際、卒業生から労働相談を受ける機会も少なくない。「ブラック企業」。そんな言葉まではやっている、いやな時代だ。そんな時代だからこそ団結「剣」企画をここ数年は毎年開催している。／最近、こんなことを思った（今回の企画でも扱う内容だ）。みなさんはどう考える？

●学生アルバイト実態調査を行った。賃金未払い、急なシフト変更、仕事のミスに対する弁償などトラブルに遭遇している学生は少なくない。こんな「オカシイ」「何とかしたい」と感じている学生も、だ。みんなになじみのないと言われる労働組合は、じつはそんな素朴な思いの「延長上」にあるのじゃないか？

●オリンパスや大王製紙と企業不祥事が相次いでいる。ケシカランという声がちまたにあふれている。だが、当該企業で働く人たちは何をしている？「俺たちが汗水たらして働いた成果」を無駄にされたことへの怒りは聞こえない。いや、そもそも働く人たちは問題を事前にチェックできなかったのか？

（絵・野澤香里）

そんなわけで（といささか強引だが）、いま必要なのが労働組合だ。労組の役割は賃上げだけではない。そして、自分・仕事・職場や仲間を大事に思うからこそ、労組なのだと思う。

ただ、実際に、一人で経営者に異を唱えればどうなるかは火を見るより明らかだ。労働者の権利を保障した日本国憲法や労働基準法は、会社の門前で「絵に描いた餅」と化す。

そこで、———— 対等に渡り合える、団結の「剣」 —————を使おう。

「剣」。それは凶器の刃（やいば）ではない。また、狭い意味での「自ら」の利益をかなえる「剣」でもない。職場をそして社会を変えるのはあなたであり、私であり、私たちだ。年の瀬にそんなことを一緒に考えてみたい。履修生以外の学生しょくんも、ぜひ聞きに来て欲しい。

とき 12月22日（木）12：40～14：10

場所 1号館 34番教室

講師 札幌地域労組 書記長 鈴木一氏 <http://www.infosnow.ne.jp/~sgu/>